

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 5月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1171100702
法人名	社会福祉法人敬愛会
事業所名	グループホームきらら(ぬくもりの家)
所在地	〒349-1112 埼玉県北葛飾郡栗橋町伊坂460-1 (電話) 0480-55-1165

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月8日

【情報提供票より】(平成20年4月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月18日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 13人, 非常勤 8人, 常勤換算	17.1人

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨造り
	3階建ての2階～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	33,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり1,400円			

(4) 利用者の概要(4月15日現在)

利用者人数	21 名	男性	8 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	10 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	67 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中田病院、田村歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、駅に近い閑静な新興住宅地の一角にあるが、広い駐車場を有し、デイサービスが併設になった3階建ての建物である。1階部分がデイサービス、2階・3階がグループホームで、玄関は和風作りで落ち着いた雰囲気になっている。キッチンに面した各フロアは広く、職員と利用者が話をしながら調理ができるようになっている。壁には利用者が作成した手芸品や習字が掲示され、家庭的な温かみを感じとれる。ホームの理念に沿った支援が日常的に提供され、穏やかで落ち着いた生活が送られている。併設ホームということもあり、デイサービス利用者と一緒にリハビリや音楽療法も実施され、予防介護や身体機能低下にも力を入れた取り組みがされている。また、四季折々の地域の行事には、積極的に参加し、地域に根ざしたホーム作りを目標にしている意気込みが伺えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での要改善点は特にないが、職員の研修も計画的に行われ、ケアの質の向上につながっている様子が伺える。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員から利用者の観察状況や意見をよく聞き、フロア長がまとめているので、多方面から見た評価になっており特に問題はない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 現在、運営推進会議は設置されていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 法人で年4回発行している「コスモスだより」を送付するとともに、ホームでは、担当職員が利用者の日中の様子や食事摂取量、健康について書いた一筆箋を、毎月請求書と一緒に郵送している。また、玄関に面会簿が用意してある。氏名記入欄もあるため、本音を書きにくい場合もあるが、書かれた内容によっては全職員、ユニットで話し合うようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入して、地域で行われる四季折々の行事に参加している。また、廃品回収にも協力したりしており、地域との連携に努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住みなれた地域で、いつまでも若々しく、楽々と、喜びを感じ、きらきらと輝いていられるように」という理念を掲げ、各フロアに掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時の研修で運営理念について周知している。また、各掲示版で毎日理念を確認し、日々理念にそった支援をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域で行う納涼祭に参加したり、総会に出席したりして交流に努めている。また、子供会で実施している廃品回収には、新聞紙やダンボールを出し協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は、ユニット会議で職員に読んでもらい、改善の必要があるか確認し、改善の必要性があるものについては日々のサービスで取り組んでいる。自己評価は職員の意見を聞きユニット長がまとめている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は設置していないが、法人で立ち上げた第三者委員会があり、意見を聞いて取り組んでいる。		法人の第三者委員会は、5～6人で構成されており、メンバーは地域の区長、民生委員、法人の役職等であるため協力してもらい、運営推進会議が設置されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に、ホームの空き情報、町内・他市町村の利用者の受け入れ、パンフレット等の配布などの件で、連絡を取り合ったり相談したりして連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年4回法人で発行しているコスモスだよりを送付している。また、ホームでは、担当職員が「日中の様子、食事摂取量、健康について(特に体重)」を書いた一筆箋を毎月請求書と共に郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に面会簿が用意してある。氏名記入欄もあり、なかなか本音を書きにくい場合もあるが、書かれた内容によっては全職員、ユニットで話し合うようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今のところ退職者も少なく、年度ごとの異動についても最小限に抑えるよう努め、今年度の異動者はいなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修後OJT担当者を決め育成に努めている。また、法人独自の研修として、スキルアップ研修、フォローアップ研修等月1回以上実施して、該当職員が出席している。外部研修においても、シフト調整のつく範囲で参加してもらい研修報告書の提出を義務づけ、フロア会議等で資料とし、勉強会を開いている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所間で、勉強会や研修等を行うことで交流の機会をもっている。また、責任者は外部研修時に情報交換をしている。		外部研修においては、責任者の外部研修時のみの情報交換ではなく、一般職員を交えて、他法人のグループホームとの交流や研修会を開催することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学時には、できるだけ家族と一緒に来所してもらい、話し合って納得してもらっている。家庭の事情等で話し合いができずに利用開始になる場合は、家族と連絡を密にして、職員側が、観察、見守りをしながら納得してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	園芸、音楽鑑賞等、一緒に見たり聞いたり、外に出かけたりしている。また、利用者の経験話を傾聴し感動したり、時には、調理の仕方を教えてもらうなど、共に過ごす中で共感し、学び支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を把握するため、言葉かけや雰囲気作りに努め、利用者の希望を聞いた上で思いにそえるよう対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	最初のプランは、1か月間24時間の行動観察をした際の記録からアセスメントをして介護計画を立てている。また、以前からの利用者は、担当者から計案を出してもらい、ユニット毎に話し合い、計画作成担当者が介護計画を立てている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体状況の変化や急を要する状況になった時は、すぐに対応しているが、介護計画の作成までには至っていない。しかし、連絡ノート、カンファレンス、面会時に聞いたものなどを参考にして、6か月ごとに見直しをして、介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容支援、かかりつけ医受診、衣類の買い物等利用者からの希望に応じ支援している。また、併設のデイサービスの利用者と一緒にリハビリやレクリエーションに参加することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が付き添って受診する場合は、日常生活の様子が記入された介護情報提供書を作成して渡している。また、家族が付き添えない時は、職員が付き添い受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ターミナルケア指針」は作成されてあるが、家族や職員と話し合われていない。		本人、家族、かかりつけ医など、関係者は早い段階で話し合いの機会をつくり、方針の統一を図っていくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時については、カーテンを上手に工夫したり、汚れものの運び方に注意をしている。また、記録を記入する際は注意を払い、テーブルの上には記録物など置かないように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を重視している。具体的には、利用者の希望に合わせ、夜間の入浴を支援したり、外食時は1名でも職員が付き添うなどして、利用者のペースで過ごせるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者より配送されているが、朝食と昼食は主に職員が作っている。夕食作りはできる範囲内で利用者と一緒に作り、会話の中で教えてもらうこともある。また、ランチョンマットやおしぼりは利用者に配ってもらい、食器は陶器のものが使われていて、家庭的な雰囲気が感じられる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回と決まっているが、利用者の希望を聞いて、曜日変更や就寝前の入浴になったり、清拭、足浴等に変更して対応する場合がある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の誕生日には誕生日会をしている。また、たばこ、釣り堀、そば打ち、行事食、合同レクリエーションや季節の行事への参加等の楽しみごとは欠かせないものとなっている。年2回程、日帰り旅行なども計画されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、外食、図書館への外出など希望者の身体状況に応じて日常的に支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでおり、夕方には利用者と一緒に鍵をかけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回行われ、そのうち2回は消防署に来てもらい訓練している。通報、避難誘導、消火器の取り扱い方、初期消火や夜間を想定した通報訓練も実施している。今後、近隣地区と協定書を結ぶ予定になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアチェック表に、バイタル、食事量、水分、排泄、入浴等、日常生活を送っていく上での健康状態に関する情報が記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の趣味活動で作られた作品が、各フロアに品よく掲示されてある。居室部分の廊下とフロアとの照明も区分され、昼間は自然にフロアに集まるよう工夫している。また、トイレ入り口部分は、レースのカーテンで仕切り、それとなくプライバシーに配慮している。キッチンにしながら利用者と会話が楽しめるようにも工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時に、以前使用していた整理タンスや椅子、テレビ、ご主人の位牌など持ち込み、落ち着いて過ごせるようにしている。カーテンも本人の好みの色や柄を選び取り付けている。		